

会 議 録

会議の名称	平成24年度 第3回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会
開催日時	平成25年 3月 26日 (火) (午前・ <u>午後</u>) 1時 開会 (午前・ <u>午後</u>) 3時 閉会
開催場所	茨木市福祉文化会館 303号室
議長	三谷 真 氏 (関西大学 商学部 准教授)
出席者	三谷真氏 (関西大学 商学部 准教授)、志賀公治 (市中小企業経営アドバイザー)、近藤正典氏 (市中小企業経営アドバイザー)、寺田和子氏 (市民委員)、前田幸子氏 (茨木商工会議所 商業部会、女性会)、西村庄司氏 (茨木市農業振興団体 養液部会、後継者部会)、領家誠氏 (大阪府 商工労働部 経済交流促進課)、谷秀樹氏 (大阪府 農と緑の総合事務所) (8人)
欠席者	棟田勝子氏 (市民委員) 高石秀之氏 (高石工業 (株)) 小林豊和 (茨木商工会議所 事務局長) (3人)
事務局職員	徳永商工労政課長、和田商工労政課商工振興係長、河原商工労政課企業支援係長、白木商工労政課 職員、伊東商工労政課 職員 有限会社 協働研究所 与那嶺、濱名、東 (8人)
議題(案件)	(1) 24年度の取組結果について (2) 25年度の取組方針(案)について (3) その他
配布資料	・資料1 平成24年度の取組概要 ・資料2 取組の詳細内容 ・資料3 平成25年度の取組方針 (案) ・各補助事業採択者資料

1. 開会あいさつ

事務局：(開会のあいさつ)

三谷委員長：(あいさつ)

2. 24年度の取組結果について

(1) 取組の結果と課題

委員長：24年度の取組について資料1、2に基づいて事務局から説明をお願いします。

事務局：(資料1、2に基づき、今年度の目標・実績・評価の報告)

各項目について、当初の目標と実績、それに対する評価分析を行った。

1) 民間活動促進事業

① 中小製造業の振興

(取組結果)

- ・企業訪問では、80件の訪問目標に対して77件の実績。
- ・新たな取組のサポートについては3件で、成果目標を達成。
大阪商工会議所等が主催したMotto Kansai with 日立造船（オープン・イノベーション・マッチング）を紹介、説明会参加後エントリし、日立造船の子会社と面会。
はじめて新卒社員を迎える企業に対し、商工会議所の「新入社員研修」を紹介したところ、3名の新入社員分を申し込み、4月に受講予定。国の「ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金」を市内企業に紹介したところ、1社が申し込みを決め、申請準備中。
- ・今年に入ってから、今後の支援施策検討の参考とするため、聴き取りでのアンケート調査を実施。

(分析内容)

- ・企業訪問による状況と支援ニーズの把握はもちろん、リアルタイムに情報が提供できるメールは有効。
- ・どの企業にどの情報を送るかの選別もできる、企業データベースの構築が課題。

② 地元農産物の活用促進

(取組結果)

- ・農業者・商業者の訪問は、目標10件以上に対して、農業者1件、商業者37件。
商業者はスイーツフェアの勧誘によるもの。
- ・農産物を活用した新商品の開発支援は、スイーツフェアの開催により、成果指標の3件を大きく上回る19件（17店）のさつまいもスイーツの新商品が開発。

(分析内容)

- ・スイーツフェアによりたくさんの新商品が生み出されたのは評価できると思われる。
- ・課題としては、①さつまいもに関しては需要開拓と地元産の供給力のバランス、②さつまいも以外の地元農産物の活用、があげられる。

③ 地域産業資源の魅力発信

(取組結果)

- ・アドバイザーの派遣や補助金の交付などを通じて、冊子の発行など茨産研究会の活動を支援したので民間プロジェクトの支援1件の目標は達成されている。
- ・10月に「いばらきさん」の第1号を発行し、第2号は年度内の発行に向けて編集作業中なので、

成果目標の情報誌「いばらきさん」の発行2回はほぼ達成された。

- ・このほか、スイーツフェアの実施により、市内の製菓店とその商品の魅力をアピールすることができた。

(分析内容)

- ・茨産研究会については、実施体制と資金調達の筋道が整った。
ただ、デザイン等担当の技術系メンバーが不足気味で、作業の分散が課題。
- ・今回スイーツフェアのような市直営の情報発信が効果的であることが分かったので、その強化が課題になる。

④民間プロジェクトの支援

(取組結果)

- ・2/14に第4回のプロジェクト創出会議を開催。行動指標の開催4回はクリア。
- ・新規プロジェクトの提案は8件あったが、プロジェクトの立ち上げ支援はなかった。
成果指標の新規プロジェクトの立ち上げ支援2件以上は達成できなかった。
- ・その代わりに、12/9に第2回ヴィンテージカーショーを開催する支援を行った。
また、宙いもプロジェクトは地域の各種イベントにさつまいも関連商品の販売で出店するとともに、店舗サポーターや市民サポーターを募集することで茨木産さつまいものPRを始めている。

(分析内容)

- ・民間プロジェクトの情報交換や出会いの場として、プロジェクト創出会議は定着してきた。
- ・すでに実行委員会のあるイベントなどは新規で開催されたが、その他の新規プロジェクトは提案があったものの、立ち上げに至らないのが課題。

2) ビジネス交流会事業

(取組結果)

- ・ビジネス交流サロンを6回開催したので、行動指標は達成。
内訳は製造をテーマに3回、産学官連携をテーマに2回、クリエイティブをテーマに1回。
- ・サロンから派生する連携は2件で、成果指標の4件以上は達成していない。
いずれも民間プロジェクトと大学との連携で、製造業に関する直接的な連携は生まれていない。

(分析内容)

- ・毎回参加する参加者が生まれているのは評価できる。
金融機関やその他支援機関にも参加者が広がっていて、今後の具体的な支援に期待が持てる。
- ・課題は、連携の促進と新規参加者の増加。

3) ブランド推進事業

(取組結果)

- ・3/3～24にスイーツフェアを開催。実施にあたっては梅花女子大学、シティライフ、J:COMと協力しながら進めた。スイーツフェアの開催1回の行動指標は達成。
- ・スイーツフェアには25店舗が参加したので、参加店数20店舗以上の成果指標も達成。
- ・さつまいもを使った新商品19点が創出されたので、ブランドとなり得る商品の選定・創出件数5件以上の成果指標は大幅に上回る達成。

(分析内容)

- ・参加店からの反響も大きく、市内製菓店とその商品をPRし、認知度を高めるという取組の主たる目的は達成できた。

- ・課題は、来年度以降への取組の継続・発展や、農産物の活用促進など。

4) アクションプラン推進事業

(取組結果)

- ・今日 3/26 に第3回アクションプラン推進委員会を開催したので、開催3回以上の行動指標は達成。
- ・補助金応募案件評価部会で産業活性化プロジェクト促進事業補助を5件採択。この後、それぞれの方に報告していただく。

(分析内容)

- ・民間プロジェクトの支援や市直営事業の実施が円滑に進んだ。
- ・来年度は委員会の議論をさらに充実させ、PDCAサイクルでの施策・事業の管理強化を図りたい。

委員長：補足はありませんか。

事務局：報告に補足をします。

- ・これらの取り組みは続けて行かないと成果が出ないものと思われます。
例えば、サロンを続けることで金型をやっている人同士が話をしたり、医療機器に参入したいという会社は何社か出てきます。続けていかないといけないと思います。
- ・日立造船とのマッチングイベントで子会社から話があったのは技術的に評価されているということです。ニッチな分野の企業さんを紹介したのですが、うまくはまって良かったと思います。
- ・企業データベースは時間がかかるけれど必要だと思っています。複雑なものでなくてかまいません。
- ・「開発支援」に関しては、テーマを設定して広くPRした方が企業の開発意欲につながるのので、支援という言葉にこだわらなくても良いと思います。
- ・スイーツフェアに関しては、一般的には1ヶ所にお店を集めて1日でどかんとやるイベントが多いのですが、このイベントは1ヶ月近くかけてお客さんが店舗を訪問する形になりました。今は店員がたくさんいる時代ではないので、こういうお店にしながら参画できる事業には大きな意味があると思います。時期的なことを除いて、お店からは概ねいい評価をいただいたと聞いています。
- ・プロジェクト創出会議からの新規のプロジェクト支援がなくなってきたということですが、これまでやってきた支援よりも情報交換の場に軸足を置いた方が良い時期に来ているのかなと思われます。

<質疑>

委員長：今年度の事業をチェックしないとイケませんので、これから議論したいと思います。

指標だけを見ると概ね達成されているようですね。中身はどうだったか検証していきます。

ご意見・ご質問等がありましたら、お願いいたします。

○中小製造業支援について

F委員：企業データベースが必要という件についてです。大阪府では自前のシステムを用意して、企業訪問をすれば、いつ誰とどんな話をしたか、職員全員が見られるようになっています。フラグを立てることもできます。メール配信のシステムもあります。

しかし、訪問数が多いので、入力が進んでいません。フォローをするとシステムが複雑になっていきます。メール配信も手が回らないのが現状です。訪問数が少ないのであればエクセルベースでいいので用意されたら良いと思います。

データベースに矛盾があって、よく人に会う人ほどデータを入れられません。滅多に出て行かな

い人が入力するので、面白いデータが抜けているということになります。とはいえ仕事のための仕事にならないようにしないといけないと思います。

事務局：2月から3月にかけて国の公募情報が出てきて、企業さんに発信しようとするのですが、対象を絞り切れていません。メール配信も関係ない情報が多くなると見てもらえないので、対象を絞って送りたいと考えています。

B委員：2月から企業訪問の際にアンケートを取っています。まだ結果を見せてもらっていないのですが。

事務局：再来年、平成26年度事業の立案のために企業の生の意見を聴いています。アンケートがあることで、突っ込んだ話が聞けて、宿題が持って帰れるというメリットがあります。信頼感の醸成や新しい動きのきっかけになるという手応えもあります。

B委員：データベースについて。気軽に話ができる企業さんであっても、初めて知ることもあります。

例えば、委員の高石工業さんも身近ですが訪問すると知らないことがありました。反面、突っ込み方は難しいと思います。

事務局：データベースに凝るよりテキスト型でデータを持っていることに意味があると思います。実際、他で作っているデータベースでは言葉で検索をかけることが多いです。

事務局：ぼくは知っているけれど、他の課員は情報を知らない企業というのが課内にあります。この状況を解消したいと思っています。来年度にはデータベースをもとに情報を送れるようにしたいと考えています。

A委員：今後どうやっていくのかを話しておいた方が良いでしょう。

様々なイベントとの関わり合いで、新規プロジェクトの支援がなかったとのことですが、事後の情報収集はしていますか？

事務局：事後の情報収集はしています。

- ・ダンスイベントについては、周りが付いてこれなくて断念されたそうです。
- ・麦音フェスは実施されました。観光の公募事業を使いました。実行委員会の形がほぼできていたのでお手伝いする必要があまりなかったのですが、充実は図れたと思います。
- ・まちバルのラブホリックも形が出来ていたので協力を必要ともしませんでした。
- ・バルフェスタいばらきは、公募補助金に採択しましたが、実施主体は既にあったので告知協力をしました。
- ・CSA（地域で支えられた農業）は提案止まりで、その後の話は聞いていません。
- ・北辰中学のプロジェクトは中断していると聞いています。
- ・リバーラバーズは、安威川を有効に使おうという取組で、広報をみてプロジェクト創出会議に参加されました。夫婦2人だけでされています。会議に参加したことで、会議参加者からの声かけがありました。
- ・モトイバアートツアーは、追手門大学の機構の企画です。協力できるところは協力していきたいと考えています。

委員長：話の途中ではありますが、24年度の公募型補助金「産業活性化プロジェクト促進事業」に採択された事業者にお越しいただいているので、各事業者これから順次、事業の実施結果を報告していただきます。評価の続きは報告の後にします。

(2) 事業報告

報告① 農事組合法人 見山の郷交流施設組合

委員長：それでは、見山の郷のみなさん、事業の概要と成果について報告をお願いします。

委員のみなさまは、報告が終わってから、ご意見・ご質問等をお願いします。

報告者：昨年、竜王みそのドレッシングを試作しました。地産地消・添加物なしのドレッシングです。

当初業者とともに作るつもりだったのですが、業者はコストダウンを求め、私たちと意見が合わなかったため、独自に作ることになりました。ドレッシングには塩こうじなどできるだけ見山産の材料を使うことにこだわりました。

大阪府のご支援も受け、200本の試作品を作り、収穫祭、環境フェア、農業祭などで販売しました。アンケートの結果、インパクトが弱い、酸味が強い、価格が高いなどのご意見をいただきましたので、それらも参考に最終的な量・味・価格を決めていきます。食の研究家の山口晴子さんのアドバイスを受けて料理レシピを作りました。

賞味期限を決めるため、日本分析センターで4ヶ月にわたって細菌数を調べ、賞味期限3ヶ月を決まりました。

今回市内業者と提携できなかったのは残念です。

見山の3/3のひなまつりイベントで販売したところ好調でした。今後はスーパーに置くのが夢です。

30年前から先輩が竜王みそに取り組んできて、今回ドレッシングを作ることが出来ました。

今回はゆず味でしたが、青じそ味にも挑戦したいと思っています。

委員長：来年度はどうされますか？

報告者：来年度はまず500本限定・1本450円で売ります。年間1500本作る計画で、もっとたくさん作りたかったのですが、昨年はゆずが手に入りにくかったので少なくなりました、今年9ー11月に収穫されるゆずで残りを作りたいと思います。

G委員：昨年はゆずが裏年で収穫が少なかったもので、今年は大丈夫だと思います。

報告② 茨産研究会

報告者：手元にお配りしているのが1号目で、2号目が間もなく発行予定です。デザイナーさんのスケジュールの関係で遅れていますが、間もなく配布の予定です。取材は終わっていて、原稿もほぼ固まっています。

2号については、1万部を印刷して8500部を配布する予定です。160ヶ所に設置予定で、広告主様20社・21万円とサポーター様53名・67000円です。お一人で10口出される方もおられます。全国札幌から鹿児島まで配布されています。

広告主様には本誌の内容を評価していただいている、追手門学院大学さんについては、今後学生さんとともに作っていくことになっています。

今のところ、広告主様に地元の名士の方は入っていません。回り切れていないということもありますし、近い店から声を掛けていこうという方針もあります。

スタッフは10名強で昼に茨木にいる人です。全員が茨木に勤務するか住んでいる人です。あと5ー6名、土日に動ける人から参加したいという話がありますので、今後どうしていくか考えたいと思います。個人事業主だと繁忙期の活動が難しく、デザイナーと私が2ー3月忙しい状況です。来年度以降、それをどう解決していくかが課題です。

委員長：来年度はどうされますか？

報告者：来年度も2号ぐらい出すつもりです。

3-4号についてはまた広告を取りに行きます。既に追加で下さいという要望もあります。広告効果はこれからです。

A委員：収支はどうなっていますか？

報告者：印刷費は1号が1万部で12万円弱で、2号は地図を付けたりページ数が増えるので、18万円を予定しています。1冊あたり10円ちょっとで非常に安くできています。今後は印刷も茨木でやりたいと考えています。

報告③いばらきバルフェスタ協会

報告者：チケットの販売枚数は1038冊で達成率は34.6%です。

目標設定が高かったので達成率が低いのですが、イベントとしては十分な達成感があります。あとバルも含めた回収率は92.8%でした。参加人数は1冊を2人から家族で使うケースが多いことを考えて、2000-2500人の間と考えています。

今後も毎年続けていきたいと考えています。

当日は茨木のそこら中を歩く人を見かけて良かったと思います。

委員長：来年度はどうされますか？

報告者：11月に開催の方向で準備中です。

昨年の参加店には4月末か5月に案内を出します。前回は参加店舗数が88店舗でしたが、今回は最大100店舗と考えています。

委員長：前回はどうやって参加店を決めましたか？

報告者：知り合いに声をかけたり、紹介で集めました。今回は市の広報も使って、5月-6月に一般公募する予定です。

委員長：バル用には料理を何食分用意しましたか？

報告者：バルメニューは通常営業用の食材の組み合わせで用意してもらいましたので、とくに何食用意して下さいという願いはしませんでした。店によっては来店を見越して多めに用意されたようです。人気集中した店では250食以上出たようです。鯖寿司は2日目の1時には完売していました。

A委員：アンケートの課題は事務局のことを言われていると思うのですが、改善案はどうなっていますか？

報告者：昨年は8月初旬に立ち上げて下旬に動き出したので3ヶ月強でイベントを実施したことになります。スタートが遅かったのでルール決めや教育(勉強会)が十分にできませんでした。宣伝も配布物の作成でミスプリントが見つかって刷り直したので、ぎりぎりになり十分にできませんでした。

今年は早めにスタートして、3ヶ月前にはバルをするというチラシを配りたいと考えています。昨年は阪急茨木市駅のロサヴィアの参加店舗がゼロだったのですが、今回は全部入ってもらうことになっていて、駅の中に早めにポスターが貼れることになります。その宣伝効果にも期待しています。

A委員：ボランティアはどういうことをするのですか？

報告者：当日は店を回ってもらい、店に並んでいるとか空いているという情報を本部に伝えてもらい

ます。

A委員：ミスプリントがたくさんあったとのことですが、どう対応されましたか？

報告者：事前に気付いたので刷り直したのとシールで対応しました。

A委員：5月の伊丹まちなかバルでバルサミットがあるので、情報収集のためにぜひ参加して下さい。

報告者：そうします。

報告④ 宙いもプロジェクト

報告者：昨年宙いもプロジェクトでは、シルクスイート、あやこまち、紅はるかの3種類のおいもを、学校や市民サポーターが植えました。収穫祭ではいもほりのほか、もみがらで焼き芋もしました。収穫祭ではアンケート調査をしたので結果をつけています。

反省として、掘るときにたくさんの傷いもを作ってしまった。

鼓動初めではコーナーを作り、紅はるかの焼きいもや市民50人に高校生の考えたスイーツ3種を食べてもらい、らんらんさん、フロスタさんなども出店しました。おいもの味は良かったと思います。

チラシやホームページ、宙いも童子のキャラクターも作りました。

次の市民サポーターについては70組の申込みがあります。

来年度は追手門学院大学の学生ボランティア、梅花女子大学の食育でご協力いただくことになっていて、店舗も巻き込みながら活動していきたいと考えています。

G委員：次年度は作りやすさや保存性を考えて、紅はるかに絞ろうと考えています。面積が3倍になりますので、農家にも協力してもらい、店ともつなげていきます。現在のサポーターは20店舗です。店を増やしすぎると生産が足らなくなります。流通の問題で、菜果808に加えて、下穂積の南来屋（なんくるや）にも配達をお願いして、地場産のものを売り込んでいこうと考えています。

報告⑤ 茨木ヴィンテージカーショー実行委員会

報告者：12月9日（日）に2回目のヴィンテージカーショーを開催しました。

客層は大人から子どもまで幅広く楽しんでいただきました。大人には懐かしく、子どもには刺激になったと思います。

ただ、12月に開催したことで、冷え込みが厳しく、風が強く、飲食店やお客さんにはご迷惑をおかけしました。今回は台数を増やしましたが、もっと車種も選びたかったと思います。

総持寺の商店街とのつながりができたのは良かったと思います。

委員長：来年度も実施しますか？

報告者：反省点を踏まえて、またやらせてもらえればと考えています。

A委員：Tシャツはいかがでしたか？

報告者：グッズ販売はキャラクターデザインも含めて課題です。Tシャツ販売はあまり収益につながりませんでしたので、考え直したいなと思っています。

(3) 取組の結果と課題（続き）

委員長：それでは24年度を取組の結果と課題に戻りますが、先に資料3・25年度の事業内容の説明をお願いします。その後に委員長の私が評価をいたします。

来年度の事業の柱について事務局からご説明ください。

事務局：「資料3」について、説明。

①中小製造業の支援について

2～3月に支援施策のメールを送ったところ反応があった。

4月から7月にかけては補助金や展示会の情報がたくさんあるので、情報提供することで具体的な行動を引き起こしたいと考えている。

8月以降は動きを切り替えて、市の支援施策を持って行ったり、支援ニーズに対応していく。

今後は企業訪問を通じて情報提供すべき企業を発見していきたい。

②茨木ビジネス交流サロン

これまでのサロン参加者には金型や自動車部品の企業さんが多く、関係性もできてきた。

第8回の医療機器のテーマでの関心から、第9回には大阪府のバイオ振興課に来てもらった。

今後はテーマを絞って集客するというので、金型や医療機器などをテーマに開催したい。

今回は医療機器をテーマに開催し、市内企業、彩都のバイオベンチャーに声をかける予定。

ここから勉強会が立ち上がることに期待している。

③プロジェクト創出会議

昨年は新規プロジェクトの立ち上げ支援がなく、進捗報告が中心になった。

キーマン同士の交流や相互連携が強化されたと思う。

次年度については食と農、スイーツがキーワードで、キーマンに出てもらい、交流を深めたい。

進行中のものについては、自力で動けるようになっているので、進捗に合わせてアドバイス等提供し、状況に応じて協力する。

④ブランド推進事業

スイーツフェアの開催で、お店にさつまいもを意識してもらえた。

事業の効果があり、市主体の取組は事業者が参加しやすいと感じた。

農と飲食をつなぐ取組や、地元産品の活用に幅を広げてできないか。

例えば、スイーツフェアにパン屋を加えることを考えている。

今回、梅花女子大学、シティライフ、J：COMの協力があったことで、広報ができた。

今後は追手門学院大学や茨木商工会議所も交えてやっていきたい。

地場産品の開発についても支援していきたい。PR機会の橋渡しとしたい。

農商工連携については、他の店にも広げていく。

これに加えて、食のビジネスマッチング会をサロンの食版ということで実施したい。

⑤チャレンジショップ

来年度、空き店舗の実態調査を行う。

それを受けて、創業志望者の育成や事業所の支援施策、立地誘導につなげる準備をする。

委員長：空き店舗調査については、ビジョン策定の時にやったのでは？

事務局：その時はサンプル数が少なく、偏りがあったのと、4年経つので、改めて実施したいと考えています。

<意見>

○評価

委員長：25年度の報告も念頭に置いて、本年度の取組内容の（1）については先ほど皆さんにご意見をいただきました。

(1) 民間活動促進事業の①～④については、②地元農産物の活用促進が◎で、①中小製造業の振興・③地域産業資源の魅力発信・④民間プロジェクトの支援は○、概ね達成できたという事業評価になるのかなと思います。

地元農産物の活用促進を◎にしたのは、成果指標以上の成果があったためです。さつまいもスイーツの新商品 19 件はよくできたと思います。

それでは(2)～(4)のところで、評価につながるご意見・質問をお願いします。来年度こういうことが必要なのではないかとということも含めてお願いします。

○茨木ビジネス交流サロンについて

委員長：ビジネス交流サロンのメンバーは固定してきているのですか？

事務局：固定的なメンバーは中心におられますが、テーマによって入れ替わりがあります。

告知が早ければ遠くからも参加されるようです。テーマと告知のタイミングが重要です。

A委員：テーマの絞り込みに関して、第7回は高校生レストランの話でテーマが違ったのですが、反応はいかがでしたか？

事務局：産学官をテーマにしたので、製造業からは遠かったと思います。

A委員：私も参加したかったのですが、どう売なのか、告知していくのかが欠けているのが製造業で、何もないところから生み出すテーマは面白いと思います。

F委員：月に1回の開催なので、何を目的にするかは難しいと思います。

チャレンジにつながるテーマ設定をすれば、チャレンジングな企業が集まるので交流会が盛り上がります。前向きな企業が集まるテーマ設定をすると良いと思います。テクニカルなものを補うには回数が少ないと感じます。

C委員：高校生レストランには行ったことがあります。私もサロンに参加したのですが、地元がんばっている企業がたくさんあるそうです。

例えば、ハンドクリームを作る企業があつて、女子高生に意見を聞いたところ、パッケージは持ち歩かないのでクリーム本体がかわいくないと売れないという意見が出て、7色刷りで容器を作ったところ評判で、韓国にも売り込みに行くというお話でした。

募集を製造業の方対象に考えておられますが、奥さんであってもご主人が製造業関係かも知れませんし、まちづくりをされているかもしれません。

情報発信力を持つ人に参加してもらうのが良いと思います。

参加した人にもプラスになると、情報が集まってきます。もっと発展する原動力になると思います。

サロンは広く門戸を広げて、プロジェクト創出会議は一緒に動いてくれる人がいるので、何かやりたい人、一歩手前の人を対象にするのが良いと思います。

E委員：やっていることはいいことと思います。商工労政課から農家へ訪問していただくのはありがたいことです。ただ、農林課がいません。農林課が農業には詳しいですし、農林課も交えた方がスムーズにいくと思いますので、農林課にも加わってもらえるようにと思います。

ある程度決めてからでないといけないと難しいと考えます。

委員長：スイーツフェアはいかがでしたか？

事務局：商業のPRとして企画しました。農林課とは一緒にやっていかないと考えています。

D委員：商業者としてつながらせてもらうことで、別なものが生まれるきっかけとなりました。

レストランをやっていますので西村さんには情報提供しています。

流通の取組はどこまでやれるか現場同士の問題はあります。茨木に住み、働き、商売している者として、それぞれの立場で小さくともつながり、興味があることを行動に起こしていけば、それが風や動きになることが重なり、茨木市全体の魅力がアップするかなと思います。

ただ参加するだけでなく、自分たちも作る側に回ればもっと活性化すると思います。たくさんの人がいろんなことをやっているとしらしめる働きが公的なところにはあると思います。「自ら動きませんか?」という呼びかけになると良いと思います。

委員長：事業評価としては、(2) ビジネス交流会事業も (3) ブランド推進事業もどちらも大学でいうと「優」はつくと思います。とくにブランド推進事業については、最近大学で付ける 90 点以上の「秀」に近いんじゃないかと思います。

もちろんそれぞれ課題はありますが、成果指標については達成できていますので、いいんじゃないかなと思います。

ただ(1)④民間プロジェクトの支援に関しては、性格が変わりつつあるのかなということで、プロジェクト創出会議という名前ではなく、ネットワーク会議のような名前で、そこでとりあえず事業をやりたい人、案だけある人、そういう人とつながりたい人が集まる場になればどうでしょうか。その中で1つでも提案があって、支援できればいいのかなと思いました。

○駅前ビルについて

委員長：駅前ビルについて検討されるのでしょうか。

事務局：25年度は、駅前については都市政策課が一体で計画することになっています。

そのまま使うのか、全面的に再開発するのか、それが見えたら動き出します。

検討会議のメンバー構成はまだ決まっていません。来年度は調査から入ると聞いています。

委員長：最初に全国の事例も調査することになっていますね。空き店舗を連担で開発した事例について調べて下さい。インキュベーションについてはいかがでしょう。

F委員：府内にはS-CUBE、枚方ぐらいで、公的なインキュベーションは縮小しています。民間ビルでインキュベーションを設けるところもあるので、課題にはなっていません。コワーキングスペースなど小ブースが流行で増えてきています。

ただ、日本ではファイナンスが付いてきていないので、事業化で大きくなる事例があまりありません。アメリカではコワーキングに来ている若者に1000万円〜1億円をぽんと出します。インキュベーションは工夫しないと難しいと思います。

事務局：2年前に大阪市は創業支援から撤退しました。

A委員：スモールビジネスとして、創業者、主婦の取組が増えていきます。軒先ドットコムが関西に進出するニュースがありました。アンケートを地域住民にとると、主婦が一定程度やってみたいという結果が出ます。手作り市がブームで、工房的な起業家も現れています。味園のビルには主婦の起業家が入っているそうです。

事務局：インキュベーションは、市長が代わったときにマニフェストに盛り込まれた経緯があります。まず全国調査を行って、茨木ならどうか、費用対効果を見て、やれそうならやるという考えです。インキュベーションは今のところ考えていません。

委員長：委員のみなさん、ありがとうございます。来年度の委員会では、進め方や目標の設定について、もう少し具体的に議論できると思います。

その他として、事務局から何かありますか。

3. 事務連絡

事務局

○委員委嘱について

- ・この委員会のように、審議等を行う会議は、市の統ルールとして、条例に基づき設置することになりました。それを受けて、4月1日付けでもう一度委嘱させていただきます。本来、今年の8月16日までの2年間で、委嘱期間とさせていただいておりましたが、25年度に限り、1年間延長させていただきます。問題ありませんでしょうか？
- ・それでは、25年度の1年間で追加で委嘱させていただきます。
- ・26年度については、また改めて調整させていただきます。
- ・なお、寺田委員と棟田委員にお願いしている市民委員については、26年度に改めて公募する予定にしております。

○次年度のスケジュール

- ・来年度は、1回目を5月、2回目を9～10月、3回目を3月の計3回の開催を予定しております。日程については、また改めて調整をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

委員長：みなさん、活発な議論をいただき、どうもありがとうございました。

今年度3回の委員会ありがとうございました。

それでは、本日の議事はこれで終了いたします。進行を事務局にお返しします。

事務局：三谷委員長、どうもありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、「平成24年度第3回 茨木市産業振興アクションプラン推進委員会」を閉会いたします。

ありがとうございました。

以上